

学校法人 神戸薬科大学 2024 年度事業計画

神戸薬科大学（以下「本学」という）は、2022 年度から 2026 年度の 5 年間における「第 3 期中期計画」を策定しました。2024 年度はその 3 年目となります。2023 年度は 5 月に新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症相当に移行したことによって、本学でもようやくキャンパスに学生の笑顔溢れる景色が戻ってきた年でもありました。

さて、18 歳人口の減少、薬学系志望者の低迷、薬学系大学の増加による競争激化等々の厳しい環境は続いていますが、本学が今後より一層の発展を図るため、「改革」「変革」及び「ガバナンス強化」の高い意識を持つことが肝要です。2024 年度も引き続き教職協働で組織的な改善を行い、内部質保証システムに基づいた PDCA サイクルを回し、全員が本学の価値向上に努める年とします。

2024 年度事業計画は予算大綱に示した「キャンパス整備の推進」「学生募集及び入試広報の強化」「学内情報基盤整備の推進」を 3 つの重点項目とし、教育環境の整備と優秀な学生の確保に取り組みます。また、2024 年度に受審する一般社団法人薬学教育評価機構が行う薬学教育評価の対応に取り組みます。

一方で、2023 年 5 月に公布された私立学校法の改正に伴う、2025 年 4 月の寄附行為の変更について準備を進めて参ります。

【教育環境整備事業】

第 3 期中期計画細目の関連項目

(ア)

- ・ 主体性、行動力、課題発見力、答えのない課題に取り組む力を兼ね備えた人材の育成
- ・ 問題発見能力、思考力、行動力を活用し薬学の未来を牽引する人材の育成
- ・ 基礎から応用までを主体的に考える教育

(イ)

- ・ 思考力育成（課題発見能力、問題解決能力、文理融合型学習）型教育の開発
- ・ 順次性のある体系的なカリキュラムの構築
- ・ 新カリキュラムの検証
- ・ 国家試験合格率向上への取り組み

(目標：ストレート卒業率 90%、ストレート合格率 80%)

- ・ FD 研修の定期的な実施
- ・ 教育方法及び教育の成果等に関する調査及び分析

(ケ)

- ・ 教育 IR のデータ収集 (2022 年～)、分析 (2024 年～)、活用 (2025 年～)

教育活動では、3 年目となる「新カリキュラム」の検証と充実に取り組みます。また、2 年目の検証結果を踏まえたカリキュラム上の改善策の効果を見極めます。それら教育 IR の分析に関して、活動の拠点となる総合教育研究センターの教員による、今後の「ストレート卒業率、薬剤師国家試験ストレート合格率の向上」に向けた「教育方法及び教育の成果等に関する調査と分析」を実施し、その成果を「定期的な FD 研修会」を通して、全教員へ共有していきます。さらに、2024 年度から適用される「改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム」の検証を進めます。

そして、2024 年 4 月にグランドオープンする新教育棟 (A 棟) で ICT を駆使した教育を実現するため、キャンパス内ネットワーク設備の大幅な更新と新講義室での「電子黒板の活用」「Microsoft365 や Google Workspace 等のクラウド活用」「電子教科書プラットフォームの活用」などの施策を実施します。

「重要業績評価指標 (Key Performance Indicator)」設定

薬剤師国家試験ストレート合格率 70%

(2023 年 3 月施行第 108 回薬剤師国家試験ストレート合格率結果 69.7%)

標準修業年限内の卒業率 80%

(2023 年 3 月標準修業年限内の卒業率 78.2%)

【学生支援事業】

第 3 期中期計画細目の関連項目

(イ)

- ・ 成績下位者及び上位者の教育方策の開発

学生支援事業においては、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症相当へと移行したことに伴い、2023 年度をもって「神戸薬科大学応急援助奨学生制度 (新型コロナウイルス感染症による家計急変)」を終了します。それに伴い、「神戸薬科大学奨学基金制度」の参画企業拡大に向け、学内外へ広報活動を積極的に行うとともに、新たな経済支援制度の創設について検討を行い、支援体制の拡充を目指します。また、従来実施してきた奨学金として、成

績優秀者対象の「神戸薬科大学奨学生制度」により優秀な学生の支援を行いつつ、家計が急変した学生へ向けた「神戸薬科大学応急援助奨学生制度」や大学院学生向けの「神戸薬科大学大学院奨学生制度」も引き続き実施し、学生が経済的に安心して勉学に取り組むことができるよう支援していきます。今後も経済的な理由で退学者を出さない支援体制を整備してまいります。

キャリア支援の面からは、2023 年度に引き続きキャリア支援委員会を中心に「多彩なキャリア支援プログラム」を実施します。2022 年度 3 月卒業生の進路先については薬局を選ぶ者が半数を超える状況（52.3%）ですが、幅広く多方面で活躍する薬剤師を輩出するよう進路先バランスを見直し、病院・企業・公務員・大学院進学者の割合を 6 割とする将来目標へ増やしていきます。そのために、1 年次生で進路希望調査を実施し、キャリア関連イベントや講義が、卒業後の進路にどのように影響するか調査します。

「重要業績評価指標（Key Performance Indicator）」設定

5 月 1 日における卒業生の進路決定率 100%

内訳：病院・企業・公務員・大学院進学合計で 50%以上

(2022 年度 3 月卒業生の 5 月 1 日における卒業生の進路決定率 100%

内訳：病院・企業・公務員・大学院進学合計で 43.2%)

【研究推進事業】

第 3 期中期計画細目の関連項目

(ア)

- ・「良い研究が良い教育を生む」の信念のもと、研究支援組織の整備

(ウ)

- ・不正防止システムのチェック機能強化

(ケ)

- ・研究 IR のデータ収集（2023 年～）、分析（2025 年～）、活用（2026 年～）

研究活動において、学長裁量経費に基づく共同研究の新規募集を 2023 年度に引き続き 2024 年度も一旦停止し継続課題のみとします。これは採択課題の研究終了時期を揃え、将来の大きなプロジェクトへ学長裁量経費を活用することを可能とするための施策であり、今後の学長裁量経費の在り方を含め検討を行います。日本私立学校振興・共済事業団「大学間連携等による共同研究」「学術研究振興資金」を積極的に推進します。また、日本学術振興会「科学研究費助成事業」や科学技術振興機構「戦略的創造研究推進事業」等、競争的研究費等の獲得拡大を目指すほか、科学技術振興機構「共創の場形成支援プログラム」等に参加

画します。将来に備え「大型、中型機器の購入に備えた研究充実準備積立金」として購入資金の積立を実施します。中期計画に定める「研究 IR」（2024 年度：研究業績管理・研究データ管理体制の構築）、内閣府が求める「研究データポリシー」「研究インテグリティの確保」、文部科学省が求める「研究不正防止の取り組み」、経済産業省が求める「安全保障輸出管理」に係る対応に引き続き取り組みます。これら多くの取り組みにより、本学の特色ある研究「疾患微小環境の解明に基づくセラノスティクス創薬」を推進していきます。

また、共同研究を実施する企業等や大型の競争的研究費等を獲得した教員が使用することを想定したイノベーションラボを 2024 年度より設置し、運用を開始します。

「重要業績評価指標（Key Performance Indicator）」設定

科学研究費助成事業（科研費）新規採択率 薬学部を有する大学内全国 15 位以内
（2023 年度科学研究費助成事業（科研費）新規採択率 薬学部を有する大学内全国 40 位）

【法人運営事業】

第 3 期中期計画細目の関連項目

（ウ）

- ・「学校法人神戸薬科大学寄附行為」の変更
- ・不正防止システムのチェック機能強化
- ・内部監査の充実
- ・大学基準協会及び薬学教育評価機構の第三者評価受審

（オ）

- ・外部資金獲得の強化
- ・適正な予算の作成と執行
- ・計画的な第 2 号基本金引当特定資産、研究充実準備積立金の積立・取崩

法人運営においては、2022 年度に行った神戸薬科大学ガバナンス・コードの達成状況点検で未実施となっていた「財政的な裏付けのある中期的な計画の実現のために、外部理事を含めた経営陣全体や、経営陣を支えるスタッフの経営能力を高める」ことの取組として、2023 年度に理事、評議員、監事、教職員を対象とした「経営能力を高める SD」を企画し、実施しました。さらに今年度も継続して経営力を高めるよう取り組んでいきます。また、私立学校法改正に伴い、2025 年 4 月 1 日付寄附行為の変更について準備を進めてきましたが、2023 年度に寄附行為作成例及び内部統制システムの整備について文部科学省より具体的に示されました。これらに倣い「理事及び大学運営責任者の業務執行の監督」が可能な内部統制、リスク管理体制の整備に取り組むとともに 2024 年 7 月から始まる寄附行為認可申請に

向けて引き続き寄附行為変更の検討を行います。監査では、「最近監査対象となっていない者及び競争的資金を複数受給している場合は、不正発生のリスクが高まる」との文部科学省ガイドラインを考慮して監査対象を決定していきます。2024年度に受審を予定している「薬学教育評価機構による第三者評価（専門分野別評価）」への対応、2022年度に受審した「大学基準協会による第3期大学評価及び認証評価」の結果を受け、改善項目の対応を検討し実施します。また、財務面については、学生生徒等納付金収入の安定的な確保を図るとともに、収入源の多様化を図るため、積極的な外部資金、補助金・寄付金収入の獲得に努めます。支出においてもキャンパス整備の推進に多額の資金投入を行っており、経常経費を含め予算を慎重に審議し、適切かつ効率的な資金投入を行います。キャンパス整備の進捗に合わせ第2号基本金引当特定資産の取崩しを行うとともに、今後の高額な研究用機器の購入に備え、研究充実準備積立金の積立を行います。職員の労働環境にあっては、勤怠の申請、承認を効率化し、申請書類のペーパーレス化を進めつつ、子育て世代が働きやすい職場環境の充実にも取り組みます。

なお、新教育棟（A棟）へ事務部門が移動したため、「事務処理の簡素化」「文書・書類のペーパーレス化、電子化」を大きく進め、事務のICT化を一層推進します。大学改革として事務組織改編を検討し、合理的かつ効率的な組織づくりを目指します。従来の自前主義から外部への業務委託を活用した業務運営の見直しを図り、様々な工夫を行っていきます。2024年4月1日には、先進的な情報システムの構築・運用、研究を推進するために昨年度改組した「図書・情報課」を「学術情報課」へ名称変更し、研究推進室を設置します。

「重要業績評価指標（Key Performance Indicator）」設定
寄附行為の改正及び内部統制システムの整備

【キャンパス整備事業】

第3期中期計画細目の関連項目

(キ)

- ・SDGsを意識したキャンパス整備の推進
- ・バリアフリー化の推進

(ク)

- ・教育研究活動の高度化を支える情報基盤整備
- ・近未来型図書館の構築

キャンパス整備事業においては、2023年度に新教育棟（A棟）が竣工し、非耐震建物である1号館機能の移転が完了することから、2024年度は1号館の解体工事に着手すると

もに、解体後の跡地キャンパス整備の設計に着手します。解体後の跡地キャンパス整備においても SDGs 及びバリアフリー に配慮した設計を行って参ります。そして、2023 年度に策定したアプローチエスカレーター（第二期）整備計画」に基づき正門下エスカレーターの具体的な設計及び工事に着手します。また、設備関連の維持更新として、RI 空調設備、動物実験施設空調用水噴霧装置の更新に加えて、学内情報基盤整備として、キャンパス全域における高速 Wi-Fi ネットワーク環境の整備、統合認証システム、Microsoft365 や Google Workspace の教職員、学生へのサービス提供などのクラウド活用による基幹システムのサービス継続性とレジリエンスの強化を実施し、さらに電子リソース管理・活用のための図書館システムの見直しを行います。

「重要業績評価指標（Key Performance Indicator）」設定

神戸薬科大学の校舎等における耐震化率 100%

(2023 年度の耐震化率 84.5%)

【学生募集強化事業】

第 3 期中期計画細目の関連項目

(カ)

- ・入試制度の継続的な見直し
- ・入試広報の強化
- ・特待生制度の活用並びに検証及び改善
- ・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定高等学校連携

出願者の大幅な増加を目指し、新方式の入試導入や種別毎の入学定員の変更等の入試制度の抜本的な見直しを行います。年内に進学先を決定する年内入試志願者が全国的に増加していることから、本学でも早期に優秀な学生を獲得するため、「総合型選抜（専願制、10 月実施）」と「学校推薦型選抜（専願制、11 月実施）」を新規に導入します。これにより、総合型、学校推薦型 3 種（指定校制・公募制専願・公募制併願）、一般選抜 5 種（前期・中期・後期・地域枠・共通テスト利用）と合計 9 種の多様な入試で、潜在的な志願者の掘り起こしと取り込みを図ります。さらに、入学定員を年内入試（総合型、学校推薦型）では 30 名増員し、一方で一般選抜を 30 名減員します。2021 年度入学試験から始めた「新入生特待生制度」、2022 年度入学試験から始めた「入学金延納制度」を継続し国公立志望の優秀な学生の確保に取り組みます。また、受験生の利便性向上や受験機会の拡大を目的に、CBT 方式による入試方法を検討し、全国の薬学部に先駆けて 2025 年度入試での導入を目指します。

入試広報の強化は、地元兵庫県からの出願が減少した 2024 年度入試の結果を踏まえ、「薬

学への誘い」「サイエンスフェア in 兵庫」などの地元の高校生に対する事業に積極的に取り組みます。また、スーパーサイエンスハイスクール指定高等学校（SSH 校）との連携強化を拡大継続していきます。SSH 校とのパイプ強化の核となる事業「薬学への誘い」は、本学での研究の実体験を通じて薬学の奥深さ・幅広さを知ってもらうべくした企画であり、明石北高校のトライアルを経た上で、当初 4 校でスタート現在対象校は、8 校まで拡大しており、さらなる拡充を計画していきます。さらに、志願者の大半を占める兵庫や大阪の高校に対しては、昨年度に引き続き教職協働を実践して重点的に訪問し、出張しての薬学講義あるいは新校舎での薬学講義を積極的に宣伝し、低学年から本学の知名度向上を図っていきます。オープンキャンパスでは、新教育棟（A 棟）を開催拠点として計画しており、ICT 環境や教育の質、学生生活など本学の魅力を発信していきます。また、「大学案内」を刷新し、①研究②教育③学生支援を軸に本学の特色を丁寧にわかりやすくアピールし、18 歳人口減少の中で志願者の確保に努めます。さらに、SNS や学習支援アプリでの宣伝など広告媒体の見直しも行っていきます。

総合型及び学校推薦型選抜による入学者増を計画していますが、その反面、年内に進学を決めると、合格から入学までの期間に中弛みする傾向があることから、入学前教育の重要性が増しています。本学では、本学教員による講義に加え高校で指導歴のある教員を新たに招聘、増員し、入学前教育を充実して高校から大学への円滑な接続を目指します。さらに、入学前教育の取り組みについては、高校生だけでなく、高校や保護者に対しても積極的に宣伝することで志願者増を図ります。

大学院においては、2023 年度末の大学院薬学研究科（修士課程）薬科学専攻の廃止により、大学院におけるリソースを博士課程に集中し、本学独自の薬剤師レジデント制度を利用した「病院研修型社会人大学院博士課程」をはじめ、優秀な大学院博士課程修了生の輩出を進めます。

「重要業績評価指標（Key Performance Indicator）」設定

入学試験出願者数前年比 120%

（2022 年度実績 出願者数前年比 99%

2022 年度総志願者／2021 年度総志願者数 ＝ 2,178 名／2,203 名）

【広報・地域連携・生涯研修・その他の事業】

第 3 期中期計画細目の関連項目

（ウ）

- ・ 大学ブランド力の強化
- ・ スタッフの資質向上、ハラスメント防止、IT 化推進、働き方改革のための定期的な

SD の実施

(エ)

- ・ 情報発信ツールとしてのホームページの見直し
- ・ インターネット、新聞、テレビ、ラジオ等あらゆる媒体を使った広報展開

(ク)

- ・ 米国、東南アジアの国々とオフライン、オンラインでの交流実現

(ケ)

- ・ 2021 年度に定めた「内部質保証基本方針」の学内共有
- ・ 2021 年度に定めた「内部質保証関連図」組織体制に基づく PDCA 実施

地域連携事業においては「くすりと健康セミナー」「健康サポートセミナー」「メディカルカフェ」「パーキンソンカレッジ」など多彩なプログラムを展開し、地域社会への大学の貢献を強化します。今年度は、新たな試みとして東灘次世代医療人材育成コンソーシアム共催事業として6月の「健康サポートセミナー」を公開市民講座として実施します。生涯研修においては、オンデマンド研修と併用しながら対面での集合研修を再開し、特に大きなイベントである卒後研修講座の対面実施を再開する予定です。また、グループディスカッションを通じた症例検討やワクチン接種研修等を実施します。国際交流においては、コロナ禍で長く中止をしていた渡航型の海外研修事業を再開（アリゾナ研修）し、併せて新たなプログラムを検討します。広報活動においては、2024 年度にオープンする新教育棟（A 棟）を素材とした広報活動を中心に、あらゆる媒体を使った広報展開の一環として、学生広報サポーターによる大学公式Instagramの運用開始及び 2023 年 10 月にスタートした YouTube による情報発信プログラム「ききょう TV」の充実に取り組みます。教職員の「SD 研修会」も定期的に実施し、教職員の資質向上、コンプライアンス、ハラスメント防止、IT 化推進、働き方改革に励みます。そして、積極的に「女性教員公募」を実施した結果、女性教授の割合が改善されました。今後もこのバランスを保つよう取り組みます。

「重要業績評価指標（Key Performance Indicator）」設定

専任教員教授の女性比率 25%以上

(2024 年 4 月 1 日の専任教員教授の男女比 男：女 23 人：11 人 68%：32%)

以上